

# 発掘調査 research 1

平成15年度は、本谷・宮ノ前・下河原・出土谷の各地区でトレンチを中心とした発掘調査を行いました。

本谷地区の中腹域での発掘調査は初めてで、釜屋間歩付近では石段と岩盤加工遺構が確認され、銀山最盛期の景観の一部が姿を現しました。また、第1トレンチ下層では16世紀末に遡りうる可能性の高い遺構面が検出され、第3トレンチでは灰吹き直前の鉛銀合金である「貴鉛」が出土しました。

宮ノ前地区では、江戸時代初めの石垣が検出され、「町割」との関連が注目されるなど石見銀山遺跡の中でも重要な場所の一つであることが判明しました。

下河原地区では、絵唐津や中国製染付を含んだズリ、カラミが厚く堆積し、その下層では礎石建物跡を確認しました。

出土谷地区では、江戸時代後半から明治期につくられた水路と道の跡を掘り下げ、江戸時代後期の建物跡群の後に、明治期に水路を造り直した状況や、付近の岩盤掘削がそれ以前にさかのぼることが判明しました。

このように発掘調査によって、仙ノ山南側の本谷一帯にも戦国時代以来の遺構が重層的に存在し、銀山七谷といわれる「谷」の部分にも広く関連する遺構が広がっていることが分かっています。



下河原第1トレンチ  
礎石建物跡とズリの堆積



下河原第2トレンチ 土層堆積状況

出土谷川区全景



下河原第2トレンチ